

# 国土交通

2011.2—2011.3

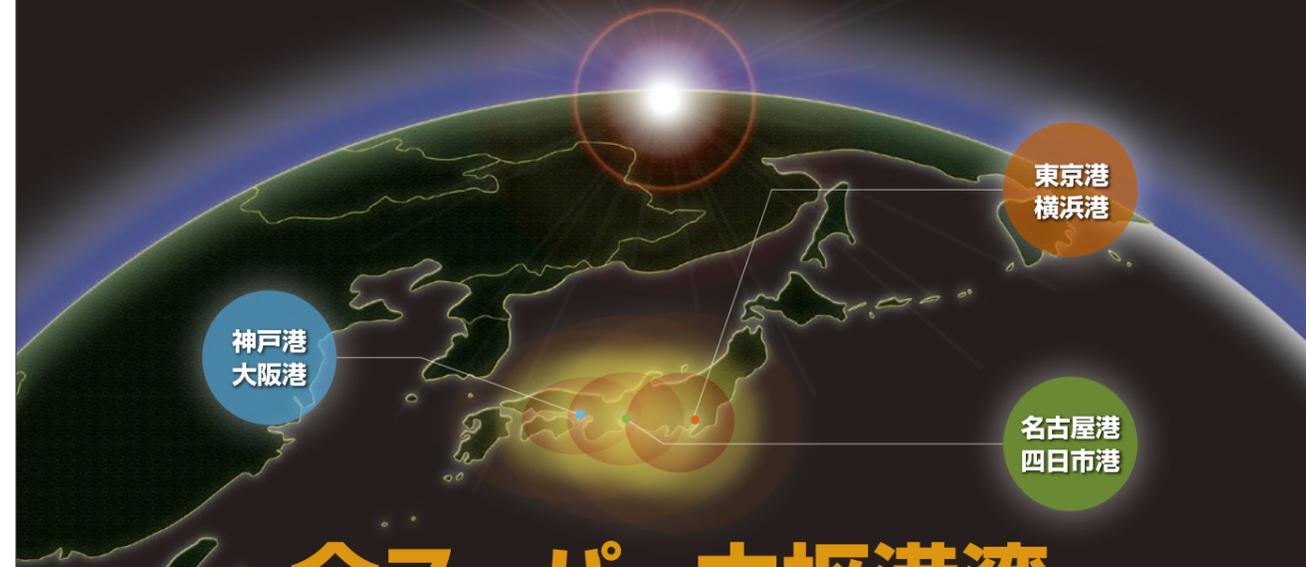
特集

「エキスパートを育む」



No. 107

## 今こそ、夜をいかそう!



## 全スーパー中枢港湾 コンテナターミナル ゲートオープン時間 20時迄拡大

リードタイム  
短縮に効く!

- これまで間に合わなかった貨物の搬出・搬入が可能!
- 前夜の搬出で、輸入貨物の早朝・午前の運送が円滑化!
- SCM<sup>(注)</sup>にいかして在庫最適化とキャッシュフローの効率向上!  
(注) サプライチェーンマネジメント

コスト削減に  
効く!

- 「仮置き」を解消し、保管費用・荷役費用等のコスト削減!
- 運送の配車効率や積載効率の向上!

セキュリティ  
確保に効く

- セキュリティの高いコンテナヤードに輸出貨物をいち早く搬入!

ゲートオープン拡大時間(16:30~20:00)の利用は**受益者負担のため時間外利用料金が必要**となります。

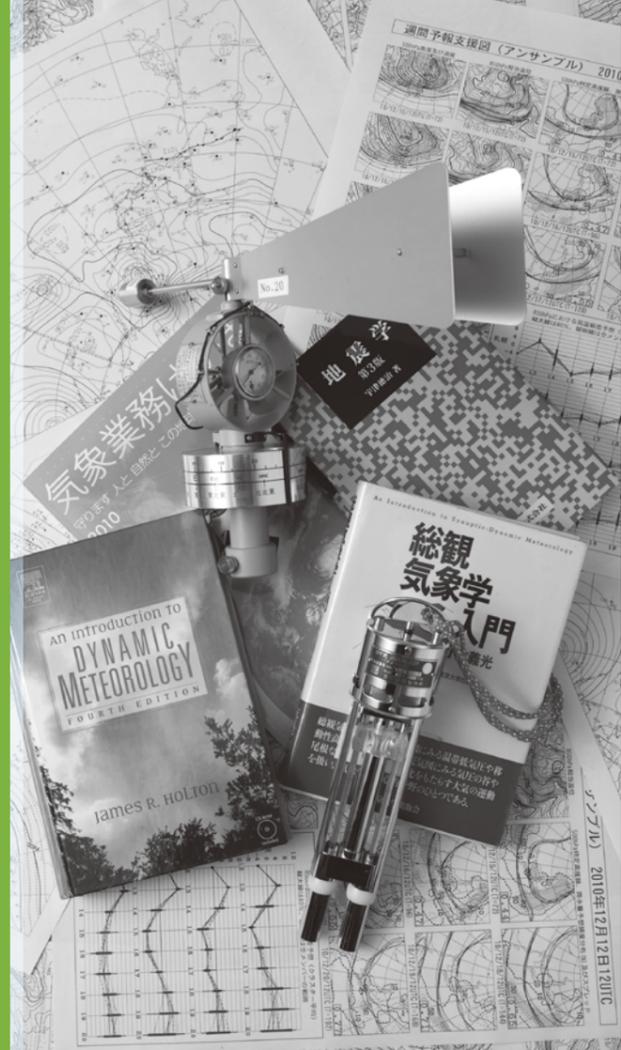
## 特集

# 「エキスパートを育む」

国土交通省では、さまざまな分野のエキスパートが業務にあたっています。

入省後、各部署に配属されてから教育・訓練が行われる業務がほとんどですが、その専門性ゆえ、国土交通省管轄の専門教育機関で教育を受けた後、初めて現場に配属される業務もあります。

今回はその専門教育機関「気象大学校」と「海上保安大学校」にスポットをあて、エキスパートとは何か、大学校では何を教育しているのか、学んだことを現場でどう生かしているのか、をご紹介します。



## CONTENTS

### 特集

#### エキスパートを育む

ルポ 気象大学校 04

豪雨、地震などの自然現象から国民の安全を守る  
気象業務の現場で活躍する即戦力の人材を養成

ルポ 海上保安大学校 08

世界6位の広大な海域で人命と財産を守る海上保安官  
リーダーシップと幅広い専門性、気力・体力を養う

### 業務密着 ルポシリーズ

現場力 12

File 8 官庁営繕部 特別整備室

### シリーズ探訪・探究

訪れたいまち 16

富山県氷見市

### MLIT 歴史アーカイブス

下水道の歴史 18

教えて国土交通省！ 20

はれるんのお天気教室 21

記者席から 22

MLIT NAVI 23



### 表紙

自然現象の観測結果をもとに予報や注意報・警報などを提供する気象庁。海の警察・消防として活動する海上保安庁。いずれも究極の目的は国民一人ひとりの生命・財産を守ることにある。その目的を遂行するエキスパートを養成するため、国土交通省は2つの専門教育機関を持っている。

# 国土交通

2011.2 — 2011.3

●平成 23 年 1 月発行 No.107 (隔月発行)  
●編集発行/国土交通省 大臣官房広報課  
〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3 TEL 03-5253-8111 (代表)  
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>  
●編集協力/株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

本誌の掲載文で、意見を述べた部分については、執筆者の個人的見解であることをお断りします。  
また、本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

ル  
気象大学校  
ポ

豪雨、地震などの自然現象から国民の安全を守る  
気象業務の現場で活躍する即戦力の人材を養成

大雪が降るとわかれば、運転する車に必要な装備を施し、台風が来るとわかれば、外出を控えたりする。天気予報はもちろん、各種の気象注意報・警報は、日常の安全を確保するのに不可欠な情報だ。また、建造物の設計や交通機関の運航でも、気象情報は常に必要となる。気象庁ではそうした情報の提供に向けて、あらゆる自然現象を最新技術を駆使して観測・予測し続ける。現場の第一線は、数学や物理に裏打ちされた高い専門性と応用技術力の求められる職場であり、自然災害も相手にするだけに、使命感やリーダーシップ、協調性も欠かせない。

基盤はデータと技術力の蓄積

気象庁が相手にする自然現象は、天候となって現れる大気の諸現象から、地震・火山や海洋で起きる現象まで、幅広い。あらゆる自然現象を、最新技術を駆使して観測し、各種の観測結果をもとに科学的知見の蓄積を生かしながら先行きを予測する。そしてこれらの結果を、天気予報や各種の気象注意報・警報などの形で、防災関係者さらには国民一般に的確に提供していく。

組織としての強みは、基礎となる観測データのほか、さまざまな技術力の蓄積があること。これが、観測結果をどう読むのか、先行きをどう見通すのか、現象把握の筋道を立てるうえで大いに力を発揮する。国の機関として長年にわたって地道な業務に取り組んできたことが、観測・予測技術の確かな基盤をつくり上げる。業務の性格上、第一線の現場には幅広さと深さを併せ持つ高い専門性が求められる。必要な人材を幹部候補として養成するのは、気象大学校(千葉県柏市)だ。

知識・技術と使命感を養う

前身は、大正11年に開設された中央気象台(現気象庁)附属の測候技術官養成所。その後、研修所の時代を経て、昭和37年、気象大学校としてスタートを切る。定員は各学年15人。卒業後は、全国61カ所の地方気象台などで現場の最前線に立ち、おおむね3年前後で地方気象台を指導する管区気象台や本庁に移って、気象庁の技術開発や業務運営の中核として指導的役割を果たす。

気象大学校では、どのような考えの下で人材の養成に取り組んでいるのか。3年前に本庁から大学校に異動してきた教務課長の三登慎一はこう語る。

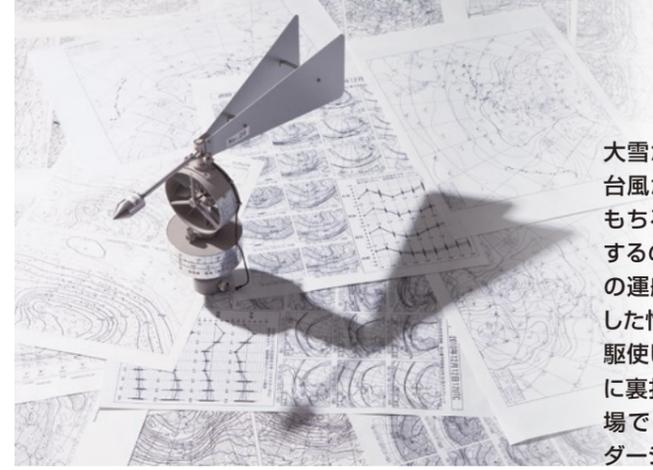
「学生には、まず、気象庁の仕事の基盤となる、いろいろな自然現象についての実践的な知識や技術を、しっかりと身に付けてもらいたい。そして、技術開発やシステム開発などをリードし、現場を引っ張っていけるような人材となつてほしい。国民の安全・安心に直結した防災業務に携わることになるので、使命感も欠かせません。想定外の事象が発生した際にも適切



教務課長 三登慎一

な対処のできる応用力や判断力も求められます」。

履修科目には、専門性の基礎を築く数学・物理系の科目と並んで、現場業務に携わること強く意識した科目がずらりと並ぶ。カリキュラムに対する考え方を、三登はこう説く。「第一線の現場を指揮する立場に立つわけですから、集中豪雨、台風、地震、火山、海洋、…、どの分野にも的確に対応しなくては務まりません。大学院レベルの専門知識はもちろんのこと、予報・警報などの防災業務への対応能力といった実践的な能力も修得してもらおうとしています」。



現場業務を常に意識して学ぶ



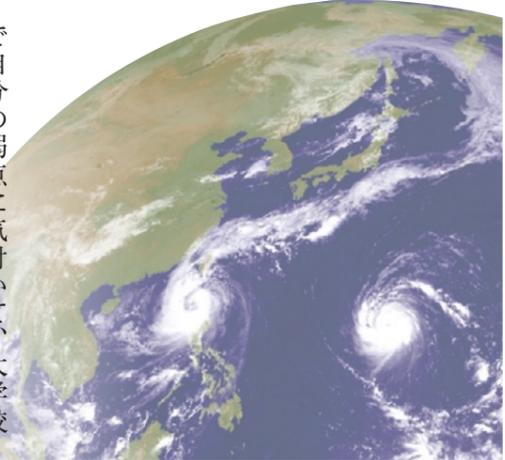
低温実験。  
上層の大気と同様のマイナス40度の低温室内で、雲や雪の生成過程を観察する

熱心に耳を傾け、ノートを取る学生

卒業を間近に控えた長谷川嘉臣は、「理学系大学院に通う高校の同級生からは、大学院修了までに修得するレベルの内容を4年間で圧縮して学んでいく印象を受ける、と言われました。しかも、通常の大学で学ぶのが学究的な内容であるのに対して、気象大学校で学ぶことは実践的です。4年間、卒業後の仕事を常に意識させられました」と振り返る。

大学校という名前からは、つい、4年制の大学と比べがちだが、学生はすでに気象庁職員。勤務時間帯には、当たり前だが、授業がびっしり。見た目はごく普通の学生と変わりないが、入学したときから国家公務員としての仕事をしているのだ。

学生は授業を通じて、現場業務に即した自然科学分野の学術知識を幅広く深く学ぶと同時に、業務の内容そのものを学ぶ機会も持つ。防災対応能力、危機管理能力などの実践的な能力を体得させる特修課程は、まさにそうした学びの場。その一つである実習では、3・4年生が本庁や地方気象台の現場に2週間にわたって出向く。「それまで学んできたことを試す一方で、現場



で自分の弱点に気付いて、大学校に戻ったらそこを学び直す。そうしたフィードバックも生まれています(三登)。

同じ特修課程の一つであるコミュニケーション演習では、自然災害の防止に結びつく気象情報の伝え方や国際機関との連携・交渉に必要な技能などを講義する中で、指導役の教官は極めて実践的な内容にまで言及していく。

学生を指導するのは、専任の教官と本庁などの職員だ。防災気象業務の第一線や技術開発などの業務を経験してきた職員が教官になることもあるだけに、授業の内容には業務の最新事情までの確に反映させることができる。三登は「日進月歩の技術革新にもきちんと対応できる教育体制で、3年生のセミナーや4年生の卒業研究などでは、マンツーマンの指導で臨んで



に取り組んできた。何しろ、その存在を発見したのは、同庁気象研究所の職員ら。いまから30年ほど前、南極昭和基地上空のオゾン量が著しく少なくなることを、初めて観測によってつかんだといういきさつがある。以来、気象庁では、オゾン層の観測速報や調査解析の結果を定期的に公表している。

今まさに南極の地においてオゾンホール観測をはじめとする各種観測調査の任務を遂行中である第52次日本南極地域観測越冬隊の全員を指揮統率する越冬隊長に抜擢された宮本仁美(51歳)も気象大学校卒業生の一人である。

目に見えない自然現象も暮らしの安全を脅かす

暮らしの安全を脅かす自然現象として怖いのは、目に見えない形で起きるものだ。目に見えないからこそ、日常生活の中では危険の察知や回避は難しい。

南極や北極の上空でオゾン層の濃度が薄くなって穴が開いたようになるオゾンホールは、その一例だ。太陽からの紫外線を吸収するオゾンの濃度が下がれば、皮膚がんなどの病気になるリスクを高めるとされる有害紫外線が、より多量に体に降り注ぐことになる。しかし、日常生活の中でその危険性を感じることは、まずない。

気象庁ではもちろん、オゾンホールに対しても古くから観測

データ解析の授業風景

## 卒業生に聞く



松江地方気象台技術課 現業班員  
かま だ あかね  
**鎌田 茜**  
平成22年3月卒業

### 現在従事している業務について

—5交代24時間体制で観測と予報業務を行っています。気象台で常時観測しているデータのほか、午前9時、午後9時（世界標準時0時、12時）に世界各地で行われる気象観測の各データも用いて、気

象庁にあるスーパーコンピューターで作成された天気図や数値予報資料の解析などを行います。

また、天気予報に関する問い合わせ対応も行います。さらに、天気の状態によっては、警報・注意報、防災に関する気象情報の発表作業なども行います。

気象台の仕事は、ひとたび激しい気象状況となれば、防災情報の作成や伝達が急務となります。警報などを次々に発表するのはもちろん、自治体の防災担当者や報道関係者、一般からの問い合わせに迅速に対応することも必要となります。

このような忙しい仕事ですが、夜勤の気象観測の合間に、穴道湖の美しい夕暮れの景色に触れたとき、自然を相手にする仕事の素晴らしさを実感します。

### 気象大学時代学んだこと

—実際の仕事に必要な知識はもちろんですが、問題に対処する「知恵」を学ぶことができたと思います。全寮制の生活の中で、組織がどのように動いていくのを見ることができました。大学時代の経

験は、私にとって非常に大きな財産となっています。

実際の仕事に就くと、壁に当たることもあります。自分だけで解決しなければならないことも多い。しかも仕事である以上、公的な責任があり、投げ出すわけにはいきません。そんな時に役立つ知識が、大学時代の授業中の教官の一言や先輩たちとの会話の記憶の中にあたりします。

### 気象庁職員としての今後の抱負

—例えば、地上気象観測ならば一般の方々への公開や数値予報への利用、というように、どの仕事にも意味があります。自分の行う仕事が全体の中でどのような意味を持っていて、どうしたらより改善できるのかを常に意識していきたいと思っています。

### あなたにとって「エキスパート」とは

—「仕事に関連する深い知識や技術を持ち、学び続ける人」「それを利用して問題を発見、解決できる人」「議論を交わすなどして周囲にもエキスパートを増やすことができる人」だと思います。

## 卒業後は幅広い業務に

気象大学の学生は、卒業後、気象庁本庁や地方の現業部門に配属され、気象、地震・火山、海洋等の観測、予報、防災、調査、技術開発等の業務に従事します。

その後多くの職員は、本庁、管区等で気象行政の企画・立案あるいは各省庁との協議・調整の職務及び調査、研究に従事します。

さらに、国際協力として南極観測やジュネーブに本部を置く世界気象機関(WMO)などでも活躍しています。



高層気象観測



国際会議

災害調査



海洋気象観測船「凌風丸」



南極観測

「全寮制で養われること」  
授業と並んで、気象大学校の教育を特徴付けるのは、全寮制だ。入学時、学生は原則として全員、敷地内に建つ3階建ての寄宿舎に入る。4学年60人の学生はここで、寝起きをともにする。2人一部屋。学年の異なる学生と同室になることで、タテの人間関係も確実に生まれていく。

狙いはどこにあるのか。「学生組織が運営する寄宿舎で寝起きをともにすることで、先輩と後輩、同期同士が、授業外でも組織の運営や勉強、将来についてやり取りを交わすようになります。こうしたことを通じて、第一線の現場で指揮を執るのに必要なリーダーシップや協調性、それに使命感を学んでもらいます」(二登)。



長谷川嘉臣(4年)

友井川龍平(4年)

山崎由佳(2年)

比良咲絵(1年)

幼いころから空を見るのが好きだったという1年生の比良咲絵は、高校時代の友人が豪雨で床上浸水

### エキスパートをめざして

気象庁職員の研修機関としての役割を併せ持っていることから、全国から幅広い年代の職員が各種の研修に訪れ、学生と同じ寄宿舎に滞在する。学生にとってみれば、第一線の現場で活躍する先輩とも寝起きをともにする機会を得られる。友井川龍平は「研修中の先輩職員から、『卒業したら、即戦力として大いに働いてもらうから』と、声を掛けられました。現場の期待とともに業務に対する使命感を痛感させられました」と話す。

このような環境の中で、社会に役立ちたいという意識は早い時期に培われる。

気象大学の学生は、独力カリキュラムと全寮制の下で、現場業務に必要な実践を学び、使命感やリーダーシップ、協調性を養っていく。そして卒業後は、現場で配を振るうエキスパートとして、暮らしたの安全を脅かすあらゆる自然現象から国民の生命と財産を守る役割を果たす。60人の学生はその日を夢見て、日々研さんに励んでいる。

降水の地域特性に興味をもって、全国の地方気象台を一人で訪ねて歩く2年生の山崎由佳は、現場業務にふれる機会が多いせいか、将来の希望は早くも明快だ。「気象注情報・警報は利用されないと意味がないと思います。どのように活用できるのかを広めたいので、時代の流れやニーズの変化に対応できているかにまで気を配っていきたい」。

の被害にあったのをきっかけに、気象の分野で役立ちたいとの思いを抱くようになって、気象大学の門をくぐった。「卒業までに履修科目をきちんと修めないと、というプレッシャーは感じますが、同時に、卒業後はようやく人の役に立てるようになるという期待感も感じています」。

## 専門知識を培うための校外実習



本庁実習



地上気象観測実習



火山観測実習

ル  
海上保安大学校  
ポ

世界6位の広大な海域で人命と財産を守る海上保安官  
リーダーシップと幅広い専門性、気力・体力を養う

映画「海猿」シリーズでの海難救助や尖閣諸島領海での中国漁船衝突事件で、一躍脚光を浴びようになった海上保安庁。四方を海に取り囲まれた日本にとって、海上での人命や財産の保全を担う同庁の役割は極めて大きい。現場の最前線で、治安・安全の確保や海難救助にあたるのは、「海の警察官」と呼ばれる海上保安官だ。海上保安大学校では全寮制の下、4年にわたる専門教育を実施することで、その将来の幹部海上保安官の養成にあたる。



海上の警察、消防として

ぐるりと海に囲まれているだけあって、資源に対する管轄権の認められる排他的経済水域と領海を合わせた広さが、日本は世界6位に位置する。海域には、漁業資源はもとより、さまざまなエネルギー・鉱物資源が眠る。これらの資源に対する権益をきちんと確保できるか否かは、将来の成長にかかわる重要な課題だ。遠く離れた海の上でこうした国の権益を守る任務に就く海上保安官の業務は、資源獲得競争の時代、ますます重要度を増している。

「海上」の「保安」を担うこの海上保安官とは、改めて整理するとどのような仕事なのか。海上保安庁政策評価広報室で広報企画係長を務める高橋大亮は、こう説明する。「わかりやすく言うと、海上で警察、消防と一緒にしたような仕事をしていると言えます。具体的には、不審船・密輸・密航、テロへの警戒、海難事故や自然災害に対する迅速な対応や救助、海洋環境の保全、大陸棚調査や航行管制などにより、海上の安全および治安の確保を図ることを任務としています」。身分

は、国家公務員として海上保安庁に勤める行政官であると同時に、「海の警察官」と呼ばれるゆえんだ。

現場の最前線である海上は、船舶でしか行き来できない。陸上と違って交通手段が限られているだけに、海上での人命・財産を守るという観点から何か事に遭遇したときには、海上保安官が一手に引き受けて迅速に対応するのが業務効率上、好ましい。海上保安官の任務はこうした理由から、自ずと幅広くならざるを得ない。

勤務地は、現場の最前線にあたる海上のときもあれば、本庁や地域ごとの海上保安本部といった陸上にときもある。高橋の場合を例にとると、「海上保安大学校を卒業した後、まず、砕氷型の巡視船に機関士として3年間乗船しました。その後、本庁で国際刑事課と人事課に勤務し、再び、海上に戻って、10人乗り程度の巡視船に機関長として2年間乗船しました。そして2010年4月に、本庁の政策評価広報室に異動になりました」と、海上勤務と陸上勤務とを交互に繰り返してきた。

度。男女ともに、同じ敷地内に建つ寮で団体生活を送る。では、海上保安大学校では将来の幹部海上保安官をどのように養成しているのか。

授業は「課業」である

朝6時半。寮内には「総員起こし、起床整列5分前」と放送が掛かる。6時35分、男子寮前の広場に、作業着に着替えた学生が整列する。班ごとに点呼で人数を確認すると、担当の学生が朝礼台に上がって、「たいそー、よーい(体操、用意!)」と声を上げる。隊列がさつと横に開く。12月にもかかわらず、男子は上半身、裸、女子はTシャツ姿に。「一、二、三、四、五、六、七、八」の掛け声とともに体を動かす独自の海上保安体操で、1日は始まる。

清掃と朝食を終えると、8時45分から授業が始まる。座学の場合は、男女ともに制服姿。身分はすでに海上保安庁の職員だから当たり前ではあるが、授業間の移動は制服、制帽。アタッシュケースを手にさっそうと歩く姿は、海上保安官の卵として凛々しさにあふれる。

特別司法警察職員として不可欠の刑事訴訟法の授業をのぞくと、学生一人一人の目の前には海上保安実務六法をはじめ、参考図書が



高橋大亮。現在は本庁勤務。大学卒業後、最初に乗船したのは砕氷型巡視船「てしお」だった



船などに関する専門性はもちろん、気力・体力も欠かせない。巡視船艇に乗っている間は、ひとたび密漁や密輸といった犯罪を認知すれば特別司法警察職員として捜査にあたる必要があるし、遭難している船舶を見つければ海難救助にも出向かねばならない。あらゆる事態を想定する必要がある。それに、幹部ともなれば、年上のベテラン職員から海上保安学校を卒業したての部下職員を指揮する必要性にも迫られるだけに、リーダーシップも不可欠だ。

この将来の幹部海上保安官を養成するのが、海上保安大学校(広島県呉市)だ。1学年は最大で45人程

ずらりと並ぶ。——どのような要件を満たすとき、職務質問が可能か——教官と学生の間でやり取りが展開される。指名を待つことなべく次々に発言する学生。授業への参加意識は驚くほど高い。

ここでの授業は「課業」と呼ばれるように、学生にとっては仕事の一つだ。昼食をはさんで、夕食・入浴時間までは、課業と終了後の体育部活動にみっちりと精を出す。サッカーや野球など運動系のサークル活動は、全員に参加が義務付けられたもの。活動を通じて、気力と体力を養う狙いだ。

消灯は22時半。整列・体操で始まった規律正しい1日が、終わる。

現場で使える人材を育てる

大学校で学生課長を務める長友利隆は、教育方針に対する考え方

海上保安大学校全景。左端に見える船舶は練習船「こじま」



正門。門を入りすぐ右手には無料で見学できる「海上保安資料館」があり、平成13年に銃撃によって被弾した巡視船「あまみ」の一部などが展示されている



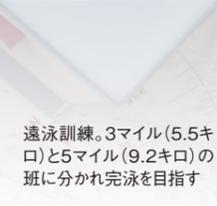
まだ薄暗い中で行われる海上保安体操



映画「海猿」で有名になった潜水訓練用プールとその訓練



カッターによる訓練。最近のカッターはFRP製がほとんどだが、海保大では大事に受け継がれてきた木製のカッターも現役だ



遠泳訓練。3マイル(5.5キロ)と5マイル(9.2キロ)の班に分かれ泳泳を目指す



長友利隆。「人を動かすのは“人”」

こうした養成に対する考え方に對して、大学卒業生でもある長友や高橋は学生時代の4年間で、自身なにを身に付けたとみているのか。

まず長友。「何より気力と体力です。そして、寮生活を通して、がまんすることや相手のことを思いやること、言わば協調性が身に付

### 4年間で身に付けること

海上保安大学校で養成しようとするリーダーシップを、長友はこう表現する。「体を張って、率先して物事に取り組んでいく姿勢が求められます。例えば海難救助に向かう場面では、任務の確実な遂行に向けて安全な方法を見出したうえで、部下の前に出て『ついてこい』との姿勢を見せること、つまり『この人の指示なら従おう』と部下職員に思わせるだけの人格が必要となります。人を動かすのは“人”だということを忘れてはいけません」。



食事も班単位で。学生達のほっとする時間だ

いたと思います。教官、上級生、下級生とさまざまな立場の人間と24時間生活を共にすることは、実際に業務として巡視船艇に乗り組んだ時、クローズドな空間の中でいかに円滑にコミュニケーションをとって任務にあたるか、ということにつながると思います」。

次に高橋。「私は機関科を専攻していましたが、その知識はもちろんです。が、団体生活のスキル、リーダーシップなど大学校で多くのことを学んだと感じています。寮生活では同時期に在籍する前後3年にわたる先輩・後輩を含めて、仲間意識を培ってきたと思います。現場に出ると、教科書どおりではなく臨機応変に対応しなければ

海上業務を遂行する組織単位ともなる船舶の乗員は、言わば運命共同体だ。指揮系統が機能しないようでは、業務の遂行に支障が出るばかりでなく、命を落とすことにもなりかねない。組織としての規律の正しさ、リーダーシップや協調性を重視する背景には、こうした事情もある。そして、運命共同体の一体感をさらに確かなものとするのは、海上保安大学校という一つの教育機関で「同じ釜の飯を食べた」という意識を養成することにはかならない。

ばならないことが少なからずあります。そこでは大学校で学んだ知識・経験が必ず生きてきます。現役の学生には、4年間きちんと基礎を身に付けてほしいと思います」。



無線通信実験のひとつ

## 「日本を守る仕事に」「まずは現場に出て」「海外で国際業務を」卒業間近の4年生3人に将来を聞く



柳楽賢治郎



杉之原純子



矢野琴子

### ——卒業後、主にどのような仕事に携わりたいですか。

**柳楽** 日本を守る仕事です。大学校で海上保安庁の取り扱う事案を勉強するようになって、日本を守るという大きな仕事をしていることがわかりました。それで、警備に興味を持つようになったからです。刑事訴訟法の勉強には力を入れました。

**杉之原** まだ明確なビジョンは持っていません。実際に現場に出てみて、先輩方と自分を重ね合わせて考えてみたいと思います。どれだけの引き出しを持てるかを求められていると思って、分け隔てなく勉強してきました。

**矢野** 国際業務に興味があって、海外勤務を希望しています。大学校では毎年、海上保安官と同じようなエキスパートの養成を手掛ける海外の機関と交流する機会を持っていて、そこでは世話役を経験しました。第二外国語は中国語を選びました。

### ——幹部海上保安官として現場では年上の部下を持ちますが。

**柳楽** 業務に関しては知識も経験も豊富に持っている方にはかないません。謙虚な気持ちを持ちながら、現場に出てからも勉強を怠ることなく、乗員全員と良いコミュニケーションを取るよう心がけます。

**杉之原** 高校時代、英語の先生から、「Understand(理解する)」とは、相手の下(Under)に立つ(Stand)ことと教えられました。大学校では、学年が上がるにつれて、この言葉を意識してきました。現場でも常に下に立って、相手の立場を理解したいと思います。

**矢野** 現場経験がないからと言って、部下を惑わすことはできません。船全体のチームワークを大事にしていきたいです。自分で考え決断して答えを出さなければならぬときが必ずあると思います。現場経験がなくても的確な指揮を執れるように、さらに勉強していきます。



をこう説明する。「将来、幹部海上保安官としての職責を全うするため、人格の陶冶とリーダーシップの涵養、高い教養と見識の習得、強靱な気力・体力の育成を中心に教育訓練を実施しています。『海の警察官』として必要なカリキュラムと同時に、『行政官』として必要なカリキュラム、例えば行政法や民法、商法などの講義も用意しています。現場では多様な役割を持つだけに、現在自分が行っている行為はどの法律のどの条文を根拠として行っているのかを理解して行えるよう、徹底指導しています」。

教官としては、「現場で使える人材を育てることを意識する。それはつまり、上司からの指示を待つのではなく、自ら考えて、決断し、



分厚い法規集と格闘中。幅広い知識が備わってはじめて一人前の初級幹部となる



東南アジアからの留学生。4年間大学校で共に学び、帰国後は母国のエキスパートとして活躍することになる

実行できる人材。言い換えれば、主体性をもって振る舞える人材だ。「その前提として、知識や気力・体力が必要になるわけです。現場には現場のやり方があります。学生にはあくまで基本を身に付けさせることを第一としています」。即戦力の人材を養成するのが狙いはいえ、4年という時間を掛けて基本から積み上げていく必要性を、長友は指摘する。

初級幹部を養成する、この海上保安大学校の教育の根幹は、学生全員が寮生活を送る『全寮制』にあると言える。寮生活の最小単位は、各学年1人の計4人で構成する自習室である。この自習室が7つから8つ集まって1つの班を構成し、この班が6つ集まって学生隊を構成している。自習室、班、学生隊にはそれぞれ、指揮を執る学生が置かれる。学生はこうした団体行動の下、整列・体操に始まって消灯に終わる規律正しい1日の生活を送っていく。団体行動を通して、リーダーシップや協調性を養うのが狙いだ。



1. 国立国会図書館新館の書庫を案内する岩崎 2. 地下8階まで続く新館の書庫から、中央の吹きぬけを見上げる。1日中書庫で作業する人に閉塞感を与えないための構造で、本を傷める直射日光は天窓のフィルムで遮られている 3. 新館のほかに本館にも書庫がある 4. 本館目録ホールにある、スタンドグラスがはめこまれた格子壁（工事前）

# 現場力

げんばりよく

業務密着ルポシリーズ

## File 8 官庁営繕部 特別整備室

多くの人が訪れ、多くの人が働く、国民の共有財産である官庁施設。安全に、安心して利用できる施設としての役割を果たすため、「官公庁施設の建設等に関する法律」に基づき整備がなされている。その整備を一手に担う官庁営繕部の中で、日本の国家中枢機能が集中する東京・霞が関周辺地区を担当する、特別整備室の業務に密着した。



### 日本の中核を支える

「国土交通省官庁営繕部」。何も知らずに聞くと、一体どんな部署なのか見当がつかないのではないだろうか。営繕とは、建築物の建築、修繕または模様替えのことを行い、事務庁舎、研究所、教育文化施設といった国の建築物（官庁施設）の整備や保全指導を行うのが官庁営繕部だ。

足早に通勤する人たちに交ざり、まず訪れたのは、国会議事堂を中心に首相官邸や政党本部などを構える東京・永田町。隣接する行政機関の庁舎が建ち並ぶ霞が関とともに、立法・司法・行政の中枢機能が集積する地区である。

向かった先は、日本で唯一の国立国会図書館である国立国会図書館。そこで改修工事が行われているのだという。空はあいにくの雨模様。冷たい雨が降りそそぐなか案内してくれたのは岩崎州美子だ。近年、女性が増えてきたとはいえ、まだまだ少数派である女性技官で、3人の子の母親でもある。

営繕の仕事は、各省庁など国の機関から依頼を受け、工事をマネージメントするというもの。いわば省庁と工事を請け負った民間会社との仲介役だ。岩崎が所属する特別整備室は、霞が関周辺の整備を担当する。「霞が関周辺という特殊な地域なので、各省庁の業務に支障が出ないように調整するのが一番のポイントです」（岩崎）。

### 貴重な書籍も眠る国会図書館

職員専用のエレベーターに乗り、新館の地下にある書庫へと降り立った。国内の出版物を網羅的に収集し、文化的財産として蓄積している国立国会図書館。書庫に入ると見渡す限り本、本、本……。これが地下8階まで続くから驚きだ。

無数の出版物で埋め尽くされる書庫の天敵は、火と水である。火災報知器も通常より感度の良いものを採用し、火災が発生した場合は水でなく消火ガスが噴出するのだという。「書庫の工事は本を傷つけないように、とにかく気をつけていきます。本棚ひとつひとつをシートで保護するなど、細心の注意を払いますね」。

そう話す岩崎に連れられ、本館の目録ホールへと移動した。現在、国立国会図書館本館では耐震補強工事が進められている。スタンドグラスがはめ込まれた格子壁が印象的なホールでは、格子壁を格子鉄骨に変える、元のデザインを生かした工事が行われていた。

目録ホールは一般利用者が出入りするため、工事中の箇所は全体を仮囲いされ、外から中の様子は窺えない。その中に足を踏み入れると、さまざまな建設機械が所狭しと置かれ、格子壁を取り外された柱などにはアンカーボルトが取り付けられており、一気に工事現場らしい空間となった。

岩崎の主な仕事は建築工事の監督業務。設計図書をもとに、品質や施行、安全面に問題はないか、くまなくチェックして

いく。岩崎は建築を専門とするが、その他には空調関係や衛生関係を整備する機械職、照明器具や受変電機器など電気系統を整備する電気職がある。

目録ホールのほか、事務棟と書庫棟を鉄骨でつなぐことで地震による揺れを抑える耐震補強工事なども進められている。工事は大きな音を伴うため、利用者が来館する日中は避け、夜間や休館日に行われる。岩崎自身、朝まで立ち会ったこともあるそうだ。

現場を後にし、施工会社と打ち合わせをするという岩崎に同行した。設計を担当したチームとともに打ち合わせはスタート。途端に室内はドリットとした緊張感のある雰囲気……。普段は優しい口調の岩崎も、発言するその声は鋭い。

打ち合わせ後に指摘すると、「言わないと仕事にならないから。それぞれの立場で意見はあると思うので、何とか折り合いをつけて、一番いいところを持っていく」と心掛けてますね」と笑って話した。

### 技官として、母親として

翌週、特別整備室のある霞が関中央合同庁舎第二号館を訪ねた。フロアは多くのデスクや棚、事務機器で埋められている。その一角に、慌しく電話対応をする岩崎の姿が。現場にいる時間が大半を占めるため、メール確認や書類確認といったデスクワークは朝一番でこなすことが多いそうだ。特別整備室の職員は現在約50名。その



5. 工事が始まり仮囲いされた格子壁 6. 建設機械などで仮囲いの中はいっぱい 7.8. スケール(メジャー)を使って図面と照らし合わせ、岩崎が細かくチェックしていく 9. 工事は丁寧に進んでいく  
10. 屋上に設置されたクレーンは、さらに大型のクレーンにぶら下げて運んだという 11. 設計チームとともに施工会社との打ち合わせに臨む岩崎 12. 官庁営繕部のある霞が関のオフィス 13. 限られた時間の中でのデスクワークに追われる岩崎 14. 免震装置が設置された経済産業省の免震層。柱の間に挟まれたゴムが揺れを吸収する働きをする 15. 「苦労するところも多いですけど、みなさんの知恵を借りて、知恵を絞って、何とか乗り越えています」(岩崎) 16. 経済産業省の工事担当者と施工会社の方々と。双方をつなぐのが岩崎の役目だ 17. 経済産業省での外構工事。地面を掘り返すべく、ショベルカーがうなる 18. 内装工事の経済産業省の一室 19. 岩崎の後ろには、天井まで組み立てられた足場が広がる 20. 岩崎が家族旅行に訪れた際の1枚。家族との時間も思いやり楽しむ、これがバワフルな岩崎の秘訣かもしれない 21. 国立国会図書館新館の目録ホール。排煙窓・ブラインドなどの改修工事を担当し、動作点検をしている

官庁営繕部のもう一つの使命

特別整備室を後にし、少し歩いたところにあるもう一つの現場、経済産業省へとやって来た。はじめに案内されたのは免震装置が設置された免震層。  
免震レトロフィット工事とは、国立国会図書館で行っている耐震補強工事が壁や柱を強く頑丈にするのに対し、免震装置により地震の揺れを吸収して抑えるというものだ。免震層には72基もの免震装置が柱に備えられている。2年半かけて行われたこの工事は、経済産業省の建物の下を掘るところから始まったという。背中をかがめず立っていられる高さのためメンテナンスもしやすく、見学に来た海外の技術者は、こんなにきれいな免震層は見ることがないと驚いたそうだ。

大半は技官で、女性技官は岩崎を入れて2名である。岩崎は建築の勉強をし設計に関わる仕事をしたいと、当時の建設省に入省して17年目になる。しばらくは地方で設計の仕事を担当していたそうだが、途中、3度の出産で仕事を離れた期間もあるが、今は家族の協力のもと、子育てをしながら現場を飛び回っている。  
「設計図が形になっていくこの仕事は、とてもやりがいがあります。圧倒的に男性が多い職種なので、入省当時は正直苦労したところもありましたけど」と、あっけらかんと笑って話す岩崎。技官としても母親としても、忙しい毎日を送る、パワフルな女性である。

特別整備室では官庁施設の耐震化を推し進めるほか、その機能、性能を維持できるように各省庁に対して建物・保守・修繕などの技術的バックアップも行う。  
「設備や施設に支障が出てから替えるのと、事前に替えるのでは全然違うんです。壊れてからだと、入れ替えるのに数ヶ月業務がストップすることも考えられます。計画的に経済的に改修やメンテナンスができるように指導を行っています。これはとても大事なことです」(岩崎)。新たに建てるだけでなく、今ある建物を活用していく。欠かせない役目の一つだ。その他、官庁施設のバリアフリー化、PFI事業※、霞が関周辺を品格を備えた地区とするための整備などにも力を入れているそうだ。

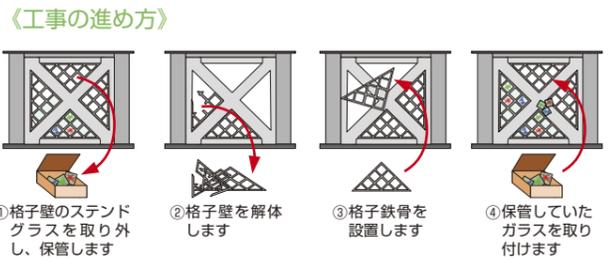
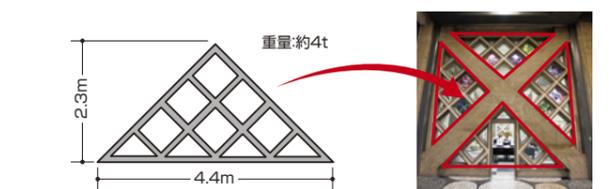
免震層から地上に戻り、地盤沈下による建築物の補修・補強のための外構工事や内装工事の現場を見て回った。経済産業省の現場だけでも、広い庁舎内を昇ったり降りたり、外に出たり中に入ったりと、常に足を動かしている状態。少し息切れ気味のわたしたちをよそに、岩崎は、何より頼もしいものであった。

国家中枢機能が集中し、迎賓館といった歴史的建築物なども建つ霞が関周辺地区。整備を担う彼女らは、その機能を支え、日本の財産を守り受け継ぐ緑の下の力持ちとして、今日も現場を駆け巡る。

※民間資金や経営手法・技術力を活用して公共施設などの社会資本を整備する事業

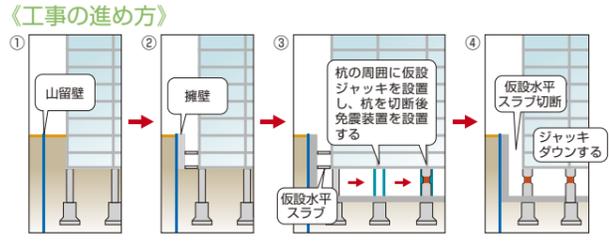
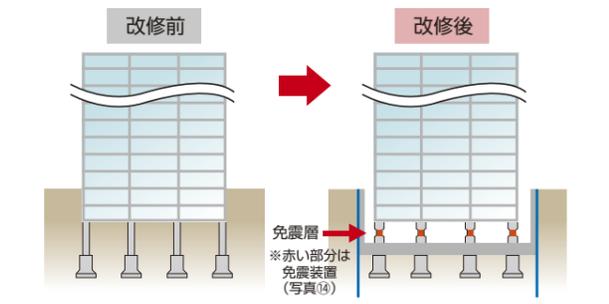
耐震補強工事

国立国会図書館では、大規模地震時における安全性の向上を図るための耐震改修工事を行っています。本館目録ホールを囲む壁は、現在の格子壁のデザインを生かし、コンクリートの格子壁を三角形の格子鉄骨にすることで耐震補強します。約4tもある格子鉄骨はいくつかのチェーンブロックで吊り上げ所定の位置に設置します。(P12写真)



基礎下免震レトロフィット工事

経済産業省では、既存建物の基礎下部に免震装置を設置して建物全体の免震化を図る、基礎下免震レトロフィット工事を行いました。掘削工事は、山留壁、擁壁、仮設水平スラブを構築し、耐震安全性を確保しながら進めました。





訪れたいまち

# 富山県氷見市



能登半島の東側付け根部分に位置する富山県氷見市は、水産都市として全国に知られている。最近、「食」と「まんが」という、ちょっと意外なテーマでまちづくりを進めていると聞き、訪れてみました。



氷見漁港には、天然のいけすと呼ばれる富山湾から多くの種類の魚が一年を通して水揚げされる。冬の「寒ブリ」は代表格。漁港内にある道の駅「氷見フィッシュヤーマンズワーフ海鮮館」も、きときと（北陸地方の方言で新鮮などを意味する）の魚を求める観光客で大賑わいだ。

ここ数年、東北北陸自動車道など氷見市と中京圏が高速ネットワークで結ばれたこともあり、海鮮館への来館者も大幅に増加した。しかし、直接には市全域への誘客に結びついていない。そこで、「買い物客」が「観光客」になっ

て気軽にまち歩きを楽しんでもらう。そんな仕掛けづくりを進めている。「食はもとより、美しい海や里山、温泉など見所が沢山あります。魚だけではない氷見の魅力も感じてほしい。氷見市商工観光課主査の舛田建治さんが話す。



世界に誇れるまんが文化

中心地を歩くと、目に飛び込んでくるのは、漫画「忍者ハットリくん」のモニュメント。「まんがロード」と名付けられた通りには、ポストの上にハットリくんがまた、道の両側に魚のキャラクターが並ぶなどにぎやかだ。氷見とハットリくんは、どんな関係があるのだろうか。

実は、ハットリくんの生みの親である藤子不二雄氏が、氷見市出身なのだ。藤子氏の生家である光禪寺には「怪物くん」や「笑ゥせえるすまん」などの石像も設置されている。また、氏の作品を展示する潮風ギャラリーには、複製原画がずらりと展示され、見応え十分。

アニメブームの影響もあってか、海外からの観光客も多い。「まちなか巡り」として藤子作品に出会えるツアーも好評だ。まんが文化の発信拠点とし

て、「オリジナルのまちづくり」への挑戦を続けている。楽しい空間には、まんがを誇りに思う気持ちが込められていた。

## 伝統の食から 新しい氷見ブランドの誕生

ランチはなにを食べようか。朝獲れ地魚か、はたまた氷見うどんか。ふと、「氷見カレー」というのぼり旗が目につく。氷見でカレー？

その理由を、飲食店を経営する土居博さんが説明してくれた。土居さんは衰退する商店街に、危機感を感じていた。なんとか人を呼び込みたい。そんな時、誰にでも愛される、お手軽なカレーが思い浮かんだ。しか

し、そんなもので人が呼べるのかと、周囲は半信半疑。土居さんは商店街を説得して回り、他のご当地カレーも研究するなど、あきらめずに地道な働きかけを続けた。

そうした情熱に、協力者が増えていく。氷見の食文化をどう表現するのか試行錯誤を重ね、ついに平成20年に16店舗が試作品を持ち寄る。広辞苑にも掲載されるほど名高い「氷見鯛」。その煮干しを使うルールも確立した。

「例えば、イタリアンの店で煮干しを使ったカレーの料理を出す。普段、カレーを提供していない店も試作品を作ってくれた。涙が出るほど、うれしかったですよ」。土居さんの苦労が実を結んだ瞬間だ。今では市内の21店舗でカレーを提供し、食のイベントにも

ぼく、氷見のプリンス  
..いややプリンス。  
仲間たちと  
お待ちしております。



藤子不二雄氏の「氷見サカナ紳士録」。8種類・16体のサカナ紳士が点在している。

1万人超の客を呼び込むなど、氷見の新ブランドとして着々と成長している。

氷見市は「鮮魚のまち」という強力なブランドがある。しかし、独自の魅力がないと、観光客は、「鮮魚が買える他の地域」に流れてしまう。その危機意識こそが、新しい観光の流れをつくっている。まんがという独自の文化の発信、また、カレーという新しいご当地グルメで、伝統の氷見の食材をも押し上げていく。

地域全体で魅力あるまちを目指したい。訪れた人に、いつだって驚きを提供したい。そんな願いが詰まった「きときと」のまちだった。



カレーによるまちおこしプロジェクト団体「氷見カレー学会」会長の土居さん。氷見を「食」によってアピールしたいという強い信念をもって活動している。



レストラン、食堂、居酒屋、パン屋などお店の個性を活かしたオリジナルカレー。各店の味を食べ比べするのも楽しみ。

市街の中心部を流れる湊川には「忍者ハットリくん」と仲間たち7体のキャラクターのカラクリ時計が、朝9時から夜7時（夏季は夜9時）まで、1時間ごとにファンタジックショーをくり広げる。（冬期は休止）



「ハットリくん」、「怪物くん」、「プロゴルファー猿」など多数の藤子不二雄氏の作品が展示されている潮風ギャラリー。「トキワ荘」の部屋のイメージ再現もあり、藤子ワールドの雰囲気伝わってくる。

## 魅力ある観光地として

国土交通省は、自然、歴史、文化等において密接な関係のある観光地同士が連携し、2泊3日以上滞る型観光に対応出来るよう魅力を高めようとする区域を観光圏として認定しています。今回の氷見市は、「越中・飛騨観光圏」として、平成22年に認定されています。

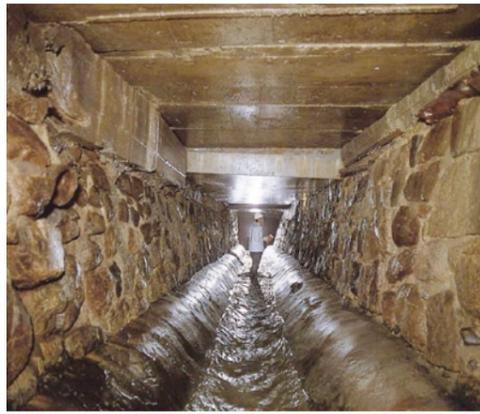
- 氷見市ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/>
- 氷見市観光情報サイト <http://www.kitokitohimi.com/>
- 氷見カレー学会 <http://www.ccis-toyama.or.jp/himi/overview/himicurry/index.html>

下水道は、都市生活や経済活動を支える重要なライフラインであり、生活環境の向上や公共水域の水質保全、浸水被害の軽減などの役割もあります。今回は下水道の歴史を踏まえつつ、時代の変化とともに多様な役割を必要とされている下水道についてご紹介します。

### 下水道のはじまり

下水道の概念の登場は、弥生時代まで遡ります。弥生時代には、稲作技術の渡来などの理由により大きな集落が形成され、防御、用水、排水などを兼ねた水路が造られました。また、安土桃山時代には、豊臣秀吉が作ったとされる背割下水(太閤下水)があり、一部は現在も使われています。その後、江戸時代までは主として雨水の排除を目的とした下水道整備が全国各地で行われました。

明治時代になり都市化が進むと、大雨の増加による浸水被害、停滞した汚水



太閤下水(大阪市)

注目が集まっています。身近な地域規模で水循環系を構築することで、「地域社会のすぐそばにある価値ある水資源」として利用することが可能となります。主な用途としては、せせらぎなどの修景用水として利用しているほか、農業用水や工業用水、また、ヒートアイランド対策として道路散水などにも利用しています。

### 下水道の資源・エネルギー利用

世界の資源・エネルギー需要は、今後大幅に増加すると見込まれており、資源・エネルギーの枯渇が懸念されています。わが国でも資源・エネルギーの供給源を海外に依存しているため、今後、資源・エネルギー循環型社会の構築が必要不可欠となります。そこで、下水処理場では、水をきれいにしている際に発生する汚泥から資源やエネルギーを創出する取り組みを進めています。

最近では技術開発が進み、下水汚泥から得たバイオガスを市バスへ供給したり、炭化した汚泥を

石炭代替燃料として火力発電所で利用したりするほか、世界的に枯渇するリンを下水汚泥から回収し、



バイオガスで走る市バス(神戸市)

# 下水道の歴史

国土交通省には、みなさんの生活基盤を支えるため欠かせない仕事が多く存在します。それらが現在に至るまでの背景には、先人の知恵や技術を受け継いできた長い歴史があります。今回は、持続可能な社会に貢献する循環のみち「下水道」にせまります。

都市・地域整備局 下水道部

### デザインマンホール

普段の生活で下水道を意識する人はそれほどいませんが、下水道を連想させるものとして誰もが知っているのがマンホールです。マンホールはその下に下水管がある目印となるだけでなく、下水道管の清掃や点検、改築などをする役割を担っています。なお、全国各地には、その地域の特色を表現したデザインマンホールが数多く存在し、都市景観の形成や観光資源として活用されています。



明治14年に着工したレンガ製大下水(横浜市)

による不衛生な環境が引き起こす伝染病が流行するようになりました。そのため、明治14年に着工した横浜のレンガ製大下水など汚水を流すための本格的な近代下水道が造られました。

昭和に入ると、明治、大正時代に下水道建設に着手した都市が続々と下水処理場を供用開始しました。その後、戦争による長い空白を経て、昭和後期になると水質保全の位置付けが高まり、下水道事業が急速に進展しました。現在、2009年度末で73.7%まで下水道が普及しており、「循環のみち」として持続可能な社会に貢献す

肥料などに利用するというようなことも実現しています。

### 環境教育の題材として

次世代を担う子供たちに普段の生活で目に見えない下水道の役割を理解してもらえらるよう、下水道の見える化を目指しています。

今日では、小学校の理科や社会、家庭科などの単元で下水道を題材とした授業を実施していただいています。この取り組みを全国に広げるために下水道を活用した学習指導案や授業ですぐに使える教材の提供、下水処理場の見学や実験などにかかる経費への助成制度などを充実させています。



助成制度を活用した下水道をとり入れた授業(長野県坂城町村上小学校)

### 下水道分野の国際協力活動

世界の水と衛生問題の解決は、国連ミレニアム開発目標にも掲げられている国際目標です。国土交通省では、過去、下水道分野の国際協力として、国際協力機構(JICA)を通じて累計14カ国に71人の長期専門家、31カ国に243人の短期専門家、45カ国に

るための新たな政策課題に取り組んでいます。

### 処理水の再利用

今後、地球温暖化に伴う気候変動により利用可能な水の不足が懸念されており、新たな水資源の確保が求められています。そのような中で、今、下水処理水を再生水として利用することに



落水水再生センター「せせらぎの里」(東京都)

250人の調査団を派遣し、世界の水と衛生問題の解決に貢献してきました。また、世界の水ビジネス市場は2025年には100兆円規模に成長する成長市場であり、日本が世界に誇る優れた下水道技術の海外展開に向けた取り組みも進めています。



ベトナムで下水道の技術指導を行う専門家

### 9月10日は下水道の日

「下水道の日」は、1961年(昭和36年)、著しく遅れているわが国の下水道の全国的普及(当時の普及率:6%)を図る必要があったことから「全国下水道促進デー」として始まりました。また、9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水に排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が適当であるとされたことによるものです。その後、2001年(平成13年)に、日本における近代下水道の基である旧下水道法が制定された1900年(明治33年)から100年を迎えたこと及び2001年が21世紀のスタートの年にあたることなどから、近年の下水道の役割に対する認識の高まりも踏まえ、より親しみのある名称として「下水道の日」に変更されることとなりました。



折り鶴を採用したデザインマンホール(広島県広島市)

この教室では、気象庁マスコットキャラクターのはれるんが、気象について教えてください。

8時間目は「春のあらし」について学びましょう。

# はれるんのお天気教室

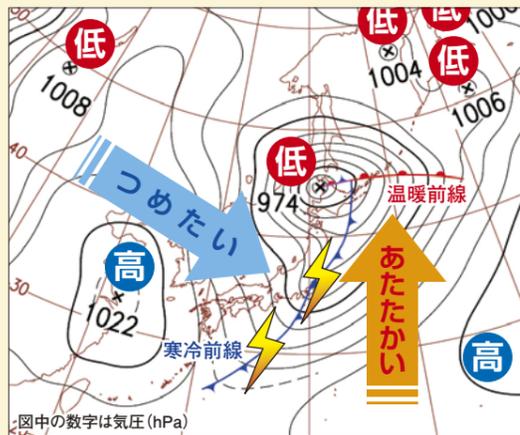
日本では2月の初旬がおおむね寒さのピークとなり、その後は次第に春が近づいてくる時期に当たります。この時期、日本付近では冬と春がせめぎ合います。冬の冷たい空気と春の暖かい空気がまざりあい、低気圧が急速に発達して台風並みに強まりあらしに見舞われることがあります。今回はこの春のあらしについてお話しします。

8時間目  
春のあらし



図は春のあらしが吹く典型的な天気図です。低気圧が急速に発達し、等圧線が混んでいる状態は、強風が吹き荒れることを示しています。低気圧から延びる寒冷前線が通過するまでは、南よりの暖かい強風が吹き込んで全国的に気温が上がります。積雪のある地方ではなだれが発生しやすくなります。2月の立春から3月の春分のあいだに、このような気象条件のもとで最初に吹いた南風が「春一番」となります。

寒冷前線が通過する際には、局地的に雷を伴って大雨やひょうが降るほか、竜巻などの突風が発生することもあります。また、寒冷前線が通過したあとは一転、数日にわたって北よりの冷たい季節風が吹き、冬に逆戻りしたような天候になります。このような大荒れの天候が予想される場合、気象庁では気象情報を発表しますのでご注意ください。



2010年3月21日9時の天気図  
20日は汗ばむ陽気でしたが、21日には北海道や関東で暴風となりました。千葉市中央区で最大瞬間風速38.1m/s、神奈川県箱根町箱根では1時間に67mmの非常に激しい雨を観測しました。

## はれるんプロフィール

名前:はれるん(気象庁マスコットキャラクター)  
種別:地球の自然(太陽、雲、雨)  
所属:気象庁総務部総務課広報室  
趣味:天気予報  
仕事:国民の気象庁に対する親近感を深めること。  
その他情報:特技は、雲の襟巻きを回転させ、空を飛ぶこと。(地球上に災害が発生しないよう監視するため)  
各地のお天気フェア、気象庁ホームページ、気象庁1階にある「気象科学館」で会うことができる。



## 教えて国土交通省!

国土交通省に寄せられた、普段の生活で感じたふとした疑問や質問などを紹介するこのコーナー。

今回は、「TEC-FORCE」と呼ばれる緊急災害対策派遣隊と、線路と道路を走る電車「デュアル・モード・ビークル」についての2つの質問にお答えしていきます。



河川局 担当者に聞きました。

## 緊急災害対策派遣隊ってどんなことをしているの?

奄美大島の土砂災害の現場に、国土交通省の緊急災害対策派遣隊(※TEC-FORCE)が派遣されたというニュースを見ました。どんな仕事をする人達ですか? (鹿児島県・高1)



TEC-FORCE(テックフォース)は、大規模自然災害が発生し、または発生する恐れがある場合に、被災地の地方公共団体などが行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的として2008年に組織されました。通常業務をする傍ら現在2608名の隊員が、非常時に備えて訓練しスキルアップしています。

本省、国土技術政策総合研究所、国土地理院、地方整備局、地方運輸局、北海道開発局、沖縄総合事務局、気象庁に設置され、先遣班、現地支援班、情報通信班、高度技術指導班、被災状況調査班、応急対策班、輸送支援班、地理情報支援班、気象・地象情報提供班が災害支援の活動を行います。

※Technical Emergency Control Force



被災状況調査活動を行う



情報収集車で被災状況を把握し、地方公共団体などへ配信して情報共有を図る



鉄道局 担当者に聞きました。

## 線路も道路も走る電車があるって本当?

線路と道路の両方を走る電車があると聞きました。それは本当ですか?どこかで乗ることはできますか? (大分県・小3)



列車が走るための線路と自動車が行くための道路の双方を走ることができる車両をデュアル・モード・ビークル(Dual Mode Vehicle, DMV)と呼んでいます。

外見や構造はバスとほとんど同じですが、ゴムタイヤと金属車輪の両方を備えていて、道路とレールの乗り換え時間はわずか十数秒です。

既にある道路と線路を走行するので、改めて道路を造ったり線路を敷く必要はありません。現在、JR北海道が開発しているDMVは、ベースがマイクロバスであり、購入費や燃費などは従来の鉄道車両よりコストを低く抑えられることが期待されています。

また、「ゆとりーとライン」の愛称で知られる名古屋ガイドウェイバスは、渋滞する区間では道路の中央分離帯上に設けた高架の専用道をバスの両側に出したガイド輪により案内されて走り、一般道路では路線バスとして運行します。名古屋市内を約10分間隔で運行しています。



JR北海道で開発中のDMV

## 平成23年1月より住宅エコポイントの発行対象が拡充されました

平成23年12月末までに工事に着手したエコ住宅の新築やエコリフォームを対象とする『住宅エコポイント』の発行対象が拡充されました。

平成23年1月以降に工事に着手し、新築のエコ住宅に「太陽熱利用システム」を設置する場合、あるいはエコリフォームと併せて「太陽熱利用システム／節水型トイレ／高断熱浴槽」を設置する場合、ポイントが加算されます。

ポイントは、環境配慮製品や商品券などの交換や追加工事費用に充当することができます。是非、ご活用ください。



お問い合わせ：住宅エコポイント事務局 TEL.0570-064-717(有料) 受付時間9:00~17:00  
<http://jutaku.eco-points.jp>

## 「建設企業の連携によるフロンティア事業」の助成対象事業者を公募します!!

国土交通省は、建設企業が連携の強化をし、技術者などを新規に雇用することにより、維持管理、エコ建築、耐震、リフォームなどの成長が見込まれる市場の開拓を図る事業を支援いたします。

本事業では、対象事業者を100件程度選定し、最大1000万円を助成いたします。助成を希望される事業者は、募集要領に従い平成23年2月15日(火)~2月28日(月)(※当日必着)の期間内に下記ホームページ掲載の各ブロック担当宛にご提出ください。

お問い合わせ：総合政策局建設市場整備課建設産業振興室 企画係 TEL.03-5253-8111(内線 24827)  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo14\\_hh\\_000180.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo14_hh_000180.html)

## 「PRI Review 第39号 ~2011年冬期~」発行!

国土交通政策研究所は、国土交通省のシンクタンクとして、内部部局の企画・立案を支援するとともに、研究成果を発信しています。機関誌PRI Review冬号を発行しました。ご依頼に応じて郵送するほか当研究所HP上にも掲載していますので、是非ご覧ください。

また、平成22年度「研究発表会」を以下のとおり開催します。詳細が決まり次第ホームページに掲載しますので、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成23年3月15日(火)午後  
 場所：中央合同庁舎第2号館講堂

お問い合わせ：国土交通政策研究所総務課 TEL.(代)03-5253-8111(内線53816)  
<http://www.mlit.go.jp/pri>



# 原点忘れずに

記者席から

東京新聞 比護 正史

「人の命にかかわる記事を書いてくれ」。2010年3月に国土交通省の担当となる際、デスクから心構えとして預かった一言だ。国土交通省はい分野を扱う巨大官庁ゆえ、取材テーマは際限なくある。「社会部の記者として何をどこまで追えばいいのか」と、多少の不安を抱えていた私は、この一言で胸のつかえが取れた気がした。

例えば入社以来十数年となるが、キャリアのほとんどは事件・事故の担当として過ごしてきた。初任地の浦和支局(現・さいたま支局)で初めて書いた原稿は交通事故だった。夏休みのある日、学習塾に向かう自転車で乗った女子中学生が、横断歩道を渡る際に信号無視した乗用車にねられて死亡した事故、と記憶している。

取材するのも、原稿を書くのも初めてだった私はビュアだった。人の死を身近に感じて、「なんてかわいそ

うなんだ」と思うだけだった。警察署の副署長にかじりついて取材した結果を、すべて原稿に書き込んで警察担当のキャップに渡した。

「お前はアホか」。原稿を見た瞬間にキャップの怒声が飛んできた。そして、こう付け加えた。「こんなに長いのが紙面に載る訳ないだろ。25行にしろ」。「人が死んでいるのに、たったの25行?原稿用紙1枚以下じゃないか」と、違和感を感じたが、泣く泣く、命じられるがままに原稿を「処理」した。これが記者としての原点だ。

しかし、時は過ぎ、記者として経験を重ねていくと、ニュース価値の判断が自然と身に付いていった。取材者として数え切れないほどの人の死を原稿にしてきた。いつしか当たり前のように、死亡事故を25行の原稿で処理する自分がいた。時間的な制約もあり、人の死を自分に重ねていられなくなっていた。昨年1月に長男が誕生した。33時

間にわたり陣痛に苦しみ続けた妻のそばにいたせいかわ、出産の瞬間、涙がこぼれた。命と正面から向き合う経験ができ、忘れかけていたビュアな感覚を取り戻せたような気がした。

子育てに奮闘する妻がある日、泣きじゃくりながら電話してきた。虐待死した乳児の記事を新聞で読んだ、とのことだった。妻も以前は記者をしていたが、もはやその面影はなく、「なんでこんなことが起きるの」と、母親として感じたままを必死に伝えていた。

仕事の話に戻そう。国土省担当となった後、7月の埼玉県秩父市で起きた県防災ヘリコプター墜落、8月に香川県沖で起きた海上保安庁のヘリコプター墜落など大きな事故を取材した。事故原因や再発防止策を念頭に置きながら取材したつもりだが、海保のヘリ事故は残念なことに、5人が死亡した事実よりも、海保側の報道機関への説明不足が「隠ぺい」と

大きく伝えられた。

10月には全日空系機が、管制ミスにより北海道・旭川空港近くで山肌

に衝突する危機に遭遇した。運輸安全委員会の調査では、同機に搭載されたGPS(対地接近警報装置)が作動したが、機長が回避措置を取らなければ、20~30秒後には乗客乗員57人を巻き込む大惨事となった可能性もあった。

